中原　泉
一枚の写真
㉑

東日本学園大学の創立者 渡邉 享 先生

歯科医師過少の要請を受けて昭和40年代後半，私立の伝統校が第二歯学部をつくる動きが相次いだ。本学も，東京とは異なる地方都市に増設を検討した。静岡市，札幌市，新潟市が候補に挙がったが，いち早く用地の目処が立ったのが新潟市であった。

昭和50年代中頃，私は，本学30回卒の庄内宗夫先生（北海道歯科医師会長）に札幌郊外へ案内された。美しい林のひろがる緑地帯を指して，先生は「ここが予定地だったんですよ」と教えた。

そのときの私は，ここに本学第二歯学部ができていたら，渡邉先生が札幌に東日本学園大学を興すことはなかったろう，としばし感慨にふけった。…幻の札幌歯学部。

32回卒・札幌市開業の渡邉 享（うくる）は，新潟歯学部の開校した昭和47年（1972）の７月，設計事務所長を伴って，札幌から１時間ほどの当別町の土地を下見した。

ついで，新日本観光興業社長の佐々木眞太郎を訪ね，医療過疎といわれた北海道に医療系大学を設置したいと，その構想を熱っぽく説き，スポンサーとして創設資金の拠出をあおいだ。当時，道内には北大１校であったから，彼の構想には説得力があったろう。

さらに，９月に北海道知事の堂垣内尚弘を訪問し，その気迫をもって学園設置の協力を取りつけた。翌10月には，札幌富士ビルのワタナベ歯科診療所内に設立準備室を置き，大学開校に邁進する。本学学長の中原 實 も，創立理事に名を列ねた。

翌48年４月に文部省に歯学部設置の認可申請（第一次審査），６月薬学部設置の認可申請を提出した。渡邉の起意から２年足らずの49年（1974）４月，東日本学園大学（のちに北海道医療大学に改称）は，渡邉 享 を理事長，大野精七を学長として，薬学部を開設した。

東日本学園大学の校名は，堂垣内知事が命名したと聞く。52年の第二次審査をへて，歯学部は53年４月に増設された。

渡邉は，初代理事長として59年１月までつとめたが，非情にも病いに倒れ，60年６月16日に68歳で逝去した。理事長在任10年であったが，ひとり医療系大学を起意し，豪胆に一歩を踏みだしたのは，紛れもなく渡邉 享 である。

かつて，渡邉先生を中に数人の校友とススキノに遊んだ。そのとき先生は，「歯学部は二次の審査なので，薬学部が先になってしまったんですよ」と微笑んだ。私は今も，その穏やかながら毅然とした品格を忘れない。

（写真・渡邉 享 先生）